日本語日本文学専攻

1．専修科目，授業科目，単位数，担当者及び授業内容

※　担当者氏名前の○印は，令和７年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授業科目	単位数	担当者	授業内容
日本語学	日本語学演習Ⅰ	4又は8	教授 博士（文学） ○衣畑　智秀	演習では，受講者の研究の関心に合わせ，研究論文の読解方法，データの作成方法，データの一般化および理論的な位置付けについて，ともに検討する形で進めていく。特講では，日本語の歴史的研究および日琉諸方言の臨地調査研究をテーマにし，文献読解や面接調査，データ処理の統計的手法などについて解説する。
	日本語学特講Ⅰa	2		
	日本語学特講Ⅰb	2		
	日本語学特講Ⅰc	2		
	日本語学特講Ⅰd	2		
	日本語学演習Ⅱ	4又は8	教授 山縣　浩	現代共通語の直接の母体である標準語とそれが書き言葉化された言文一致体の成立に係る近年の研究に関連して，明治時代前半の資料（主に文芸作品）における文体・文法・語彙などに係る諸問題について，テキストの精読と先行研究の批判的な読みに基づき，受講生諸君とともに解決していく。
	日本語学特講Ⅱa	2		
	日本語学特講Ⅱb	2		
	日本語学特講Ⅱc	2		
	日本語学特講Ⅱd	2		
	日本語学演習Ⅲ	4又は8	教授 ○江口　正	演習では，受講者の研究の関心に合わせ，現代日本語に関する研究論文の収集・読解，データの収集・整理を各自の手で進められるようサポートします。現代語研究では話者としての感覚を一般化につなげることが重要なので，例の詳細な検討や一般化の論理構成について議論を重ねてオリジナルな研究につなげていきます。 特講では，現代日本語の諸側面（音声・音韻・文法・語法・テクスト）のいずれかのテーマに関する論文を読み進めつつデータの見方を学び，研究の流れや今後の方向づけについて理解を深めていくことを目標にします。その過程で，音声の収録と分析の方法，各種コーパスの利用法，アンケートの作り方，調査結果の統計処理などの技術面についても学びます。
	日本語学特講Ⅲa	2		
	日本語学特講Ⅲb	2		
	日本語学特講Ⅲc	2		
	日本語学特講Ⅲd	2		
日本文学	日本文学演習Ⅰ	4又は8	准教授 博士（文学） ○須藤　圭	平安時代中後期に成立した物語文学を対象にして，その文学史的価値を究明します。日本文学史の中で物語文学はどのような役割をもち，いかなる問題を提起し得るのか。そうした視点から，文学がもつ想像力と可能性を問いなおしたいと考えています。
	日本文学特講Ⅰa	2		
	日本文学特講Ⅰb	2		
	日本文学特講Ⅰc	2		
	日本文学特講Ⅰd	2		
	日本文学演習Ⅳ	4又は8	教授 博士 （文献文化学） ○永井　太郎	演習では，まず，方法論の検討，受講者の専門に関する先行研究の分析を行う。研究テーマを設定したのちは，修士論文の執筆に向けて，発表と議論をしていく。 特講では，研究に役立つ諸論文を取りあげて，熟読していく。それを通して，研究の方法を身につける。続いて，近代文学の研究史で焦点となってきた問題を取りあげて考察する。本年は，私小説に関する議論を対象とする。
	日本文学特講Ⅳa	2		
	日本文学特講Ⅳb	2		
	日本文学特講Ⅳc	2		
	日本文学特講Ⅳd	2		
	日本文学演習Ⅵ	4又は8	教授 博士 （比較社会文化） ○中野　和典	昭和から現代の散文作品を中心に近現代文学を研究しています。現時点では特に，安部公房作品の研究を第一の柱，原爆文学の研究を第二の柱，近代の文学教材の研究を第三の柱とし，それらの相互関係にも目を向けながら研究を進めています。
	日本文学特講Ⅵa	2		
	日本文学特講Ⅵb	2		
	日本文学特講Ⅵc	2		
	日本文学特講Ⅵd	2		
	日本文学演習Ⅶ	4又は8	教授 博士（学術） 博士 （人間・環境学） ○林　信蔵	専攻は主に，日仏比較文学です。特に，明治期の近代的リアリズム文学の規範形成期におけるフランスの自然主義文学の影響に関心があります。また，それ以後のリアリズムの規範の相対化局面における諸芸術（絵画・音楽）と文学との相関関係にも関心があります。具体的には，永井荷風，エミール・ゾラの研究に加え，ドイツの音楽家リヒャルト・ヴァーグナーが日仏の文学者に与えた影響の研究に取り組んでいます。
	日本文学特講Ⅶa	2		
	日本文学特講Ⅶb	2		
	日本文学特講Ⅶc	2		
	日本文学特講Ⅶd	2		

その他の科目（担当者未定科目）

授業科目	単位数	授業科目	単位数
日本語学研究Ⅰa	2	日本文学演習Ⅱ	4又は8
日本語学研究Ⅰb	2	日本文学演習Ⅲ	4又は8
日本語学研究Ⅰc	2	日本文学演習Ⅴ	4又は8
日本語学研究Ⅰd	2	日本文学特講Ⅱa	2
日本語学研究Ⅱa	2	日本文学特講Ⅱb	2
日本語学研究Ⅱb	2	日本文学特講Ⅱc	2
日本語学研究Ⅱc	2	日本文学特講Ⅱd	2
日本語学研究Ⅱd	2	日本文学特講Ⅲa	2
特別講義Ⅰa	2	日本文学特講Ⅲb	2
特別講義Ⅰb	2	日本文学特講Ⅲc	2
特別講義Ⅰc	2	日本文学特講Ⅲd	2
特別講義Ⅰd	2	日本文学特講Ⅴa	2
特別講義Ⅱa	2	日本文学特講Ⅴb	2
特別講義Ⅱb	2	日本文学特講Ⅴc	2
特別講義Ⅱc	2	日本文学特講Ⅴd	2
特別講義Ⅱd	2	日本文学研究Ⅰa	2
特別講義Ⅲa	2	日本文学研究Ⅰb	2
特別講義Ⅲb	2	日本文学研究Ⅰc	2
特別講義Ⅲc	2	日本文学研究Ⅰd	2
特別講義Ⅲd	2	日本文学研究Ⅱa	2
		日本文学研究Ⅱb	2
		日本文学研究Ⅱc	2
		日本文学研究Ⅱd	2
		日本文学研究Ⅲa	2
		日本文学研究Ⅲb	2
		日本文学研究Ⅲc	2
		日本文学研究Ⅲd	2
		日本文学研究Ⅳa	2
		日本文学研究Ⅳb	2
		日本文学研究Ⅳc	2
		日本文学研究Ⅳd	2

2．履　修　方　法

① 学生の標準修業年限は2年とし，所定の授業科目について，合計32単位以上を修得しなければならない。

② 授業科目のうちから，一つの演習及びこれと同じ教員が担当する二つの特講を選定し，これをその学生の専修科目とする。

③ 専修科目の演習担当者を指導教員とし，授業科目の選択，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導を受けなければならない。

④ 専修科目の演習8単位及び特講4単位を必修科目として履修し，その他の授業科目のうちから20単位以上を選択科目として履修しなければならない。

⑤ 専修科目の演習は2年間8単位の履修を原則とするが，専修科目としない演習は，選択科目として1年間4単位の履修を認めることがある。

⑥ 同一名称にa，b，c，dを付した特講，研究及び特別講義のうち，a，bは西暦偶数年度，c，dは西暦奇数年度に開講し，a，cはその年度の前期，b，dは後期に開講する。専修科目，選択科目のいずれかを選定する場合も，これらを自由に組み合わせて所定の単位とすることができる。

⑦ 指導教員が当該学生の研究上特に必要と認めた場合は，第4項の規定にかかわらず，他の専攻博士課程前期及び修士課程の授業科目を，8単位を限度に選択科目として履修することができる。

⑧ 修士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。